

## 茨大生の積極性に驚嘆 スロバキア大使館員が人文学部で講演

在日スロバキア大使館のダニエル・オントウコ一等書記官が5日午前、人文学部を訪問



し、異文化コミュニケーション・コースの「比較文化論：異文化とは何だろう」の講義でスロバキアの文化などについて約1時間講演した。英語によるこの講義は、昨年6月に続く第2弾。学部生の100人以上が聴講、一等書記官の質問に対し、英語で質問、回答する学生もおり、オントウコ氏は、

「次々に質問する茨大生の積極性に驚いた。」と講義の感想を漏らしていた。

冒頭、人口550万人にスロバキアがポーランド、ハンガリー、オーストリアなどに囲まれる内陸国家で、欧州連合（EU）や北大西洋条約機構（NATO）に加盟していることなどを説明、1989



年の東欧革命でチェコスロバキアが共産主義国家体制から自由主義国家体制に移行した後の93年に平和的に分離し、スロバキアとして独立した経緯などを説明した。

経済面では、日本企業が1000社以上進出しており、現地での雇用が1万人程度創出されていることなどが言及された。中欧の中心に位置するため製造業の生産基地として重視され独フォルクスワーゲン社のバンタイプの工場が知られている。

文化の面では、ドナウ川が中心部を流れ、多数の世界遺産で知られる首都ブラチスラバをはじめとする観光地を紹介した。

質問のコーナーでは、手を挙げる学生が続出、「来日された理由は」、「スロバキア料理の特長は」、「どんな民話があるのか」などの質問が飛び出した。



一等書記官は、スロバキアのグルメについて「ジャガイモや豚肉の料理が多い。特に、豚肉をバターで揚げたトンカツが絶品。是非、召し上がってみてください」とPRしていた。

講義の結びに、「私の講義を聞いてスロバキアを訪れてみたいと思った人は」と呼びかけて挙手を要請、これに呼応して、ほとんどの学生が手を挙げたため書記官はご満悦の様子だった。同講義は、シュミット准教授が同大使館と面識があることから昨年スタート。書記官は、終了後、佐川学部長らと面談し、午後1時前に帰途についた。

（終）

